

米こめ大作戦通信

第2号

周南市大田原自然の家主催事業

本格的な梅雨に入り各地で大雨の被害のニュースを聞くことが多くなりました。九州南部では大変なことになっているようです。

ところで、田んぼは「水がめ」の機能も合わせ持っているというのを聞いたことがあると思います。例えば皆さんの田んぼの面積はおよそ5メートル×2メートルで約10平方メートルですが、10センチの深さまで水をためると、何と1トンもの「水がめ」となります。

田んぼは大雨の時など一時的に洪水調節の機能を果たすと言われていますが、作る人がいなくなって荒らしたり、木を植えたり、家が建ってしまうと降った雨はそのまま流れてしまって洪水になるかもしれませんね。

2回目 6月26日の様子です

さて、「米こめ大作戦」の2回目はあいにくのお天気で予定を変更しての実施となりました。まずは田んぼの草取り。除草剤を使っていないので沢山の雑草が生えていましたが、みんなで頑張って取ったのできれいになりました。でもよく見ると取り残しの草がところどころあります。雑草も生き残りに必死です。機会があったらとりに来てくださいね。



雨の中カッパを着ての草取り作業。草を一本一本とりました。思ったより大変でしたね。



どうしようかな？入ろうかな？

あれれ？君たちは田んぼに入らないのかな？

はじめはなかなか田んぼに入れなかったけど後でみんな良くお手伝いしてくれましたね。



足をきれいに洗ってね



泥は田んぼに返しました。田んぼの土は昔の人が苦勞して作ったそうです。大切にしましょう。

雨が降ってじっくりと「田んぼの生き物探し」はできませんでしたが、おたまじゃくし、いもり、アメンボなどいましたね。そうそうヒルもいました。

田んぼの生き物のこと 田んぼプールや雨上がりの水溜りと違ってとても多くの生き物がくらしています。それは田んぼを作ることと関係しています。秋に稲ワラをいれて耕すと土の微生物の力で分解されます。春になって水をいれると養分が溶け出しそれを餌にして植物性プランクトンが発生します。それを餌にミジンコなどの動物性のプランクトンが増えていきます。さらにそれを餌におたまじゃくしやイモリが生活しています。それではおたまじゃくしやイモリは何の餌になるのでしょうか？

里山探検 水路をたどってみよう



もうこれ以上進めません

水路をたどってどンドン山に入っていきました。人家の裏あたりから田んぼは荒れていました。さらに進むと田んぼに杉が植えられ、陽が差し込まず薄暗い林になりました。その奥は手入れのされていない杉が雪の重みや風で倒れたりして進むことができませんでしたね。

よくみると大きな何トンもありそうな石で組んだ石垣やずっと奥まで続く棚田の跡があります。いつのまにか水路は崩れかけていました。

こんな風景が当たり前になりつつあります。どうしてこうなったのでしょうか？考えてみましょう。

お昼ごはん



子ども達もお手伝い



「いただきます」は川端真優子さんでした。少しはずかしかったかな？



もちろん食器洗いもね！



みんなさんの声から

雨で作業時間に制約があったのが少し残念だった。

水源の確保(山林)は重要だと感じた。

一番楽しみにしていた里山探検ができてよかったです。里山探検はとてもおもしろかったので別の主催事業にして一日じっくり行ってみたいです。

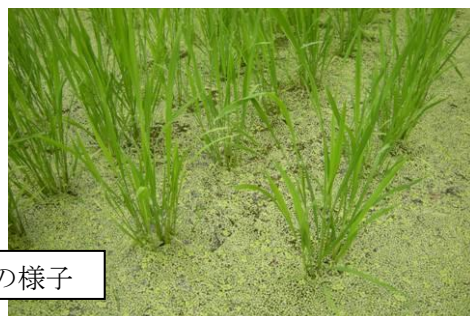
天気が悪かったけどそれなりに楽しめました。子どもにお茶を飲ませる時間がほしいです。

雨のために予定が少し狂ってしまったのが残念でしたが、何とか草取りと里山探検に行けて良かったです。

元々は田や畑だったという林は今の日本の現実見せられたようで考えさせられました。



田んぼの様子



随分と茎数も増えてきました。でも植えた場所により差があります。なぜでしょう？苗が悪かったのか、植える深さの違いなのか、雑草の関係なのか？.....

オニイサンより

2回目は雨で思いっきり外で活動することができなかったのが残念でした。次回は好天に恵まれることを願っています。

お茶のこと気付かずに申し訳ありません。その他要望、お気づきのことがあれば何時でも遠慮なく言ってください。